収支報告

	平成28年度(実績)	平成29年度(実績)	平成30年度(実績)
経常収益	6,551,403円	9,220,709円	10,273,734円
経常費用計	6,886,196円	9,339,345円	10,045,118円
事業費	5,493,655円	6,838,677円	7,119,131円
管理費	1,392,541円	2,500,668円	2,925,987円

ご協賛、寄付のお願い

当財団は、皆様からの寄付金を財源として運営しています。
当財団の活動にご賛同いただき、ご支援・ご協力をお願いいたします。

振込みによる寄付

リサイクル募金

書籍や書き損じはがきなどの買取金を寄付していただける仕組みです。

賛助会員

年会費は個人1口 ¥10,000
法人1口 ¥50,000です。

財団概要/役員

名　　称：公益財団法人あいである
所 在 地：〒141-0031
東京都品川区西五反田 7-22-17 TOCビル12F
T E L：03-6435-0444
E-mail：info@idealideal.org
設立登記：2015年4月1日
公益認定：2017年4月1日

代表理事　木皿 昌司
理　　事　笠作 真一郎
下田 隆二
中村 安志
森 智之
吉田 倖子
若杉 千秋
渡辺 修三
監　　事　相楽 行孝
評 議 員　太田 一平
武田 哲
安岡 利朗
諮問委員　坂本 輝子
坂本 博之
柴山 英士
村井 美紀

公益財団法人あいであるは、

「保護者がいない、保護者のもとで暮らすことが適当でないとされた子ども」の健全育成支援を行う財団法人です。
事業として、社会的養護児童の自立支援「お金の管理に関するレクチャー」、社会的養護出身者の退所後の支援「実家便™」を行っています。

あいである Annual Report 2019

ご挨拶　～児童養護施設で暮らす子どもたち～

公益財団法人あいであるの活動にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

保護者がない、虐待を受けている、その他環境上養護を要するなど、何らかの理由により家庭での養育が不適切であるが故社会的養護が必要とされ、児童養護施設で暮らす社会的養護児は28,000人あまりで、その数は前年比ほぼ横ばいです。これは、里親やファミリーホームへの委託数が増えていることによるもの(※1)ですが、児童養護施設には専門的な知識を持つ職員による総合的なケアと養育の必要な子どもが措置される例が多くなっているともいえます(※2)。

児童養護施設で暮らす子どもたちは、18歳に達するとそこから退所することになり、子どもの背景を考慮した社会的な支援制度もなくなることになります。児童養護施設で暮らす中では職員をはじめボランティアによるサポートなどもあり、個々の状況を理解してくれる安全で安心した暮らしを送ることができますが、社会保険や税金、お金の管理など自分自身を守るために必要な社会的スキル、食品の保存や節約等の生活の知恵を身に付ける機会がほとんどなく、施設退所後に未熟さの中でトラブルに巻き込まれてしまう例もあります。

施設から自活していく子どもたちは、非正規雇用の増える中で、法的・金銭的支援は無く、家族の後ろ盾をあてにできないがゆえ、失敗しながら学ぶという経験を重ねる余裕はなく、また、自身の生育環境に起因して社会で孤立しやすいこともあり、施設退所後も見守るという継続的なサポートを必要としています。これらの問題に着目し、お金の取扱いや公的制度など社会で生活するうえで必要な知識を学ぶ機会の提供、社会への適応状況や困ったことを直ぐに相談できるようなアフターケアのためのサポート支援を行っているのが当財団法人のお金の管理に関するレクチャーであり、実家便支援です。

親と一緒に住むことができなかった空虚感や、何らかの虐待を受けていたことによる心身のダメージからの回復など、自分自身の生育環境を受け入れ、子どもなりに折り合いをつけていくには時間を要し、社会で自活を始め自立をしていくまでにも永い時間を要します。

社会全体で子どもを守り育てるための支援の1つとして、当財団の活動を見守りご支援いただけましたら幸甚です。

代表理事　木皿 昌司

(※1)家庭と同様の環境における養育の推進【児童福祉法　公布日施行(平成28年6月3日)】
(※2)平成29年12月 厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課データより抜粋　平成31年1月 厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課データより抜粋

公益財団法人
あいである

事業報告

社会的養護施設出身者の退所後の支援事業「実家便™」

実家便

施設を退所し自活を始めた子どもに6月と12月の年2回、施設を退所した年から5年（10回）を最長支援期間として、施設からの申請を受け食品や生活用品を発送しています。
施設退所者と施設をつなぐ「実家便™」は、施設退所者にとっては施設や施設職員とつながっていることの安心感を得ること、施設にとっては子どもの居場所確認とともに、私たちはあなたを気にしていますというメッセージを「モノ」と「言葉」の両方で送る支援です。
施設退所者が、本当の意味で自立するまでには、時間を要します。唯一の拠り所である児童養護施設とのつながりを持ち続けることは、子どもが再び負の連鎖を生まないための一助となるセーフティネットであり、自立への見守り支援です。

実家便 新規 H30年

実家便 継続 H30年6月

実家便 継続 H30年12月

実績

平成28年度

新規支援人数 143
継続支援人数 92
対象施設 62

新規受付枠を200名に拡大し申請を受け付けたが、結果として49個を余すことになった。
HPでの募集案内に加え、児童相談所、児童養護施設の職員向け研修を行っている「子どもの虹情報センター」の協力を得て、研修受講者への資料配布を開始し知名度向上に努めた。

平成29年度

新規支援人数 166
継続支援人数 208
対象施設 85

継続支援に加え、新規受付枠を200名に拡大し申請を受け付けたが、結果として34個を余すことになった。施設長会議での支援紹介、既存支援施設への新規施設紹介依頼などを継続して行い、知名度向上とともに、支援の効果についての認知拡大を図っている。
諮問委員会から、支援対象者の継続率が高いとみられ、見守り支援としての効果に期待を持っているとの意見を得る。

平成30年度

新規支援人数 172
継続支援人数 284
対象施設 96

施設長会議での支援紹介、既存支援施設への新規施設紹介依頼などを継続して行い、知名度向上とともに、支援の効果についての認知拡大を図っている。
集中豪雨や地震などの災害時を想定した実家便の初回セットについて、「停電時にランタンがあることを思い出して使い、一緒に入っていた職員からの手紙を読み返し、暗い中でもホッとすることができた。」という報告とお礼を、子ども、職員から受け、内容物の検証につながる。

事業報告

「お金の管理に関するレクチャー」

あいであるのマネークリップ

社会的養護施設の下で暮らす子どもは、お金の管理や心構え、契約手続きなど社会人として必要なスキルを学ぶ機会がほとんどないまま18歳で施設などから退所し、社会で自活することになります。未熟なまま施設を退所せざるを得なかった要社会的養護児が金銭的トラブルに陥らないよう、社会適応力をつける機会として、お金の管理や、生活設計について学ぶレクチャーを開催しています。

カード形式のゲームで、取りくみやすい内容です。

社会的養護の下で暮らす子どもがお金の管理について学ぶためのレクチャーを行っています。

実績

平成28年度

5団体

施設職員に向け財団でレクチャーを行い、そこでマネークリップに慣れたうえで、職員が子どもに向けゲーム感覚でレクチャーをすることを推奨し、取り組みを勧めている。お金の管理の教え方については、各施設悩みを持っていることもあり、実施施設では好評を得た。

平成29年度

新規8団体、継続2団体

平成29年12月26日版の読売新聞（全国版）に、「児童養護施設　退所後を見守る」として、マネークリップが紹介されたことは、施設関係者への信頼醸成にも寄与し、当法人としても施設関係者への紹介がし易くなった。

平成30年度

新規12団体

職員と対象としたレクチャーを行ったうえで、児童と職員を対象としたレクチャーへと発展させるケースもあり、各施設がお金の管理や生活設計についての指導方法を模索している中で好評を得ている。

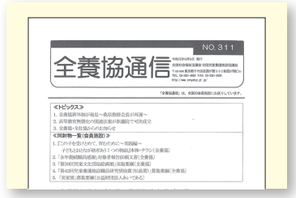
トピックス

企業からの協賛が増えています。

マルコメ株式会社様からコメントをいただきました。
『みそ汁などの発酵食品には、おなかを満たすだけではないあたたかさが、ぎゅっと詰まっています。マルコメも、商品を通じて生活者のすこやかな暮らしに貢献していきたいと思っています。今は味噌だけではなく、味噌に欠かせない米糀からつくるアルコール0%の糀甘酒や、お肉のような食感を楽しめる大豆ミートにグルテンフリーの大豆粉など、ヘルシーな商品をラインアップしています。』

marukome

全国社会福祉協議会/全国児童養護施設協議会発行の全養協通信№311に、実家便募集要項が同封されました!



全養協通信№311表紙▶

広報紙「あいであるREPORT」を年2回発行し、広報活動を行っています。

「あいであるレポート」は、ホームページ上に掲載しています。

右のQRコードを読み取り、アクセス!「あいであるレポート」がご覧いただけます。